



Contents

- 一層の日本外交強化へ
- 平成26年トピックスベスト3
- 衆議院総選挙特集



一層の日本外交強化へ
外務大臣岸田文雄



2014年衆議院総選挙特集



応援候補者数 のべ33人
訪問都道府県 15都府県



季刊誌「翔」六十一号 発行平成二十七年三月二十八日
自由民主党広島県第一選挙区支部「翔」編集室
〒730-0013 広島市中区八丁堀六一三 和光八丁堀ビル九階

岸田文雄後援会事務所

●国会事務所
〒100-8982 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1222号室
TEL (03) 3508-7279 (直通) FAX (03) 3591-3118

●広島事務所
〒730-0013 広島市中区八丁堀6-3
和光八丁堀ビル9階
TEL (082) 228-2411 (代表) FAX (082) 223-7161

●岸田文雄ホームページ
<http://www.kishida.gr.jp/>

ケータイ用サイトQRコード

岸田文雄プロフィール

昭和32年生まれ。早稲田大学法学部卒業後、㈱日本長期信用銀行等を経て、平成5年の衆議院議員総選挙において初当選。以後8期連続当選中。
自民党青年局長・商工部会長・経理局長、建設政務次官・文部科学副大臣、衆議院厚生労働委員長などを歴任後、平成19年の第一次安倍改造内閣において内閣府特命担当大臣(沖縄担当など)で初入閣。初代消費者行政推進担当大臣として消費者庁新設の土台を作る。
平成23～24年にかけて野党自民党において国会対策委員長として指揮をとり、与党に対して厳しい国会追及を行い、解散に追い込む。
また24年には保守本流の政策集団である「宏池会」の会長に就任する。
平成24年の衆議院総選挙後に発足した第二次安倍内閣において外務大臣として入閣、続く第二次安倍改造内閣・第三次安倍内閣でも引き続き再任され、現在外務大臣として世界を股にかけて活躍中。

岸田文雄フェイスブック

<https://www.facebook.com/fkishida>

日々の活動写真を中心に更新しています



岸田文雄 平成二十六年トピックス ベスト ③

一層の日本外交強化へ 外務大臣 岸田文雄

昨年は衆議院議員選挙をはじめとして様々なことがありましたが、皆様より変わらぬご支援を賜り、衆議院議員としてまた外務大臣として仕事にあたることができていることを、厚く御礼申し上げます。

外務大臣に就任して丸二年が経ちました。この間様々なことがありましたが、安倍内閣が進める「地球儀を俯瞰する外交」、単に周辺諸国との二国間関係を詰めるのではなく、地球儀を眺めるように世界全体を俯瞰し、自由・民主主義・基本的人権・法の支配といった基本的価値に立脚した戦略的な外交展開を基本として、数多くの国と地域を訪問し、様々な国際会議などに出席して参りました。その数は訪問国と地域でのべ五十カ所、出席した国際会議も七十回以上(平成二十七年三月現在)と重ねました。外交は積み重ねであり、最後は人と人とのコミュニケーションで成り立っているものですから、継続することこそが最も重要であり、この二年間においても、過去の日本外交を発展させ、未来に繋がる日本外交を常に心がけて現場に当たって参りました。そしてこれからも大局的視野を持つて国益に資する外交を継続して

参りたいと存じます。

しかし未だ国際社会と日本における外交課題は山積しております。北朝鮮やイラン等の核開発問題は国際社会全体の懸念材料ですし、中東でのテロリストの活動もはやグローバルな問題になってしまっています。また北朝鮮の拉致問題をはじめ、東アジアの近隣諸国との様々な課題は、日本の外交にとって最も注力すべき問題だと認識しておりますし、日本はロシアとも国境を接しており、北方領土返還問題などの諸課題を解決し、平和条約の締結を視野に入れた日露関係のより一層の発展的関係構築に努めて参らなければなりません。

いまの日本の立場と責任は、一国だけとの関係を考えれば良いのではなく、それが二国間外交の場であったとしても常に国際社会を意識しての外交に務める必要があります。日本の外務大臣は常に世界から注目されており、私も一瞬たりとも気の抜けない毎日をおくっております。

昨年の一年間で着実に積み重ねてきました、世界全体の平和と繁栄の実現のためひたむきに努力するという我が国の姿勢に対し、国際社会の支持は着実に広がってきています。特に核軍縮・不拡散の問題におきましては、一昨年に日本とし

① 衆議院総選挙の実施

昨年の年末、突如衆議院が解散され、総選挙が行われました。岸田文雄代議士は現職の外務大臣として迎える総選挙となりました。このため、外務大臣としての公務と自民党候補への応援、そして宏池会会長として自らの選挙区である広島第一選挙区に入る日が3日間しかないという選挙でした。

しかし多くの方からのご支持を賜り、過去最高の得票率を頂き、8度目の当選を果たすことができました。



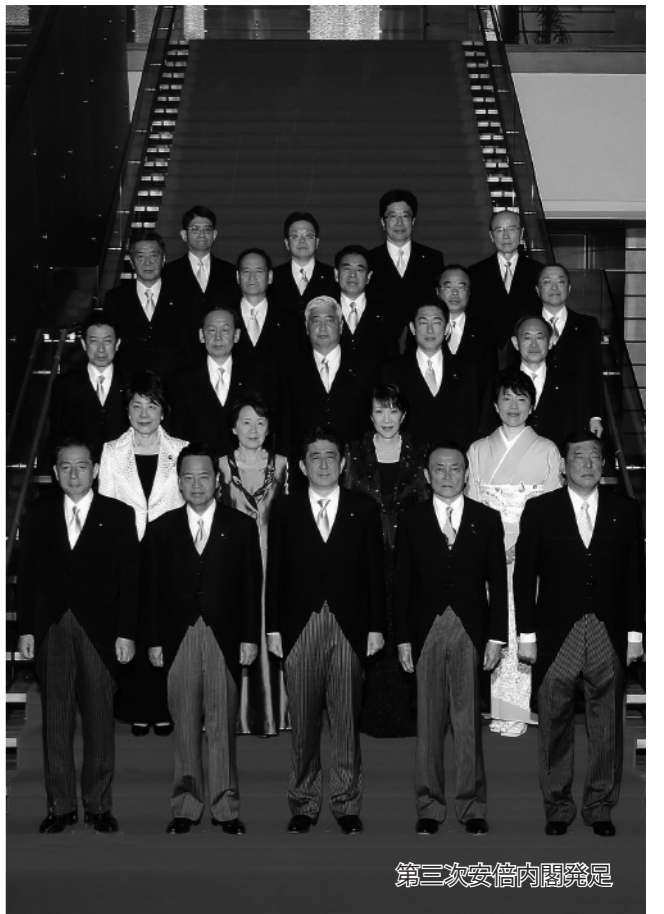
アメリカのケリー 國務長官

ベトナムのサン 國家主席

文雄代議士は、平成24年12月に発足した第二次安倍内閣で外務大臣に就任しましたが、その後安倍総理は、第二次安倍改造内閣・第三次安倍内閣と、組閣を行いました。その中において文雄代議士は外務大臣として三たび再任され、安倍内閣の中核を担ってきました。

文雄代議士の2年以上にわたる長期在任外務大臣という存在は、政治の安定こそが重要であるという象徴であり、またその長期在任の実現は、ひとえに岸田外務大臣の手腕が国の内外で高く評価されている結果だと言えるでしょう。

② 外務大臣に三たび再任



第三次安倍内閣発足

では初めて署名した核兵器の人道的結末に関する共同ステートメントに、昨年も引き続き参加しましたし、昨年の広島で行いましたNPT I 外相会合も日本での開催は初めてのことでした。また昨年十二月に開催された「核兵器の非人道性に関する国際会議」に、いわゆる核保有五大国の中からアメリカとイギリスが揃って初めて参加するなど、核軍縮不拡散に取り組んできた成果が現れていることに、特にこの分野には政治のライフワークとして注力している身として手応えを感じているところでです。

今年も広島・長崎への原爆投下から七十年の節目の年です。日本は唯一の戦争被爆国として、広島と長崎の惨禍を世代と国境を越えて語り継ぎ、「核兵器のない世界」の実現に向けて取り組んでいかなければなりません。

今年も国の内外で様々な政治課題が山積しております。どうぞこれからも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

③ NPT I 外相会合広島開催

文雄代議士は、被爆地ヒロシマ出身としては初めての外務大臣となります。それだけに核軍縮・不拡散問題には思いが強く、これまでこの問題をライフワークとしてきた身として、ここでより一層それを前進させたいという強い思いを持っています。

その結果のひとつが、昨年四月に開催された「NPT I 外相会合広島」と言えます。核を持たない国が集まり、軍縮に向けて結束して努力するこの枠組みの意義は大変に大きく、それを被爆地ヒロシマで初めて開催できたことは、岸田外務大臣の存在があつてこそでした。

またこれらの取り組みの継続が、昨年十二月に開催された「核兵器の非人道性に関する国際会議」にいわゆる核保有五大国の中からアメリカとイギリスが揃って初めて参加するなどの成果に繋がっています。



客国代表と原爆資料館へ

